

# 特別会計決算 — 一般会計からの繰出金は約3億714万円

町には一般会計とは別にそれぞれで運営されている6つの会計があります。平成24年度の決算は下表のとおりです。

平成24年度は一般会計から6つの特別会計に、合計約3億714万円を繰出しています。前年と

比較し341万円減少(1.1%減)していますが、一般会計を圧迫している原因の一つです。

よって、医療や介護にかかる費用が多くなればなるほど町の負担も増え、一般会計を圧迫する仕組みとなっています。

会計名	決算額		歳入歳出差額	前年度比
	歳入	歳出		
国民健康保険特別会計	歳入	4億2291万円	2797万円	0.7 %
	歳出	3億9494万円		1.0 %
介護保険特別会計	歳入	5億4092万円	1514万円	△2.7 %
	歳出	5億2577万円		△2.5 %
後期高齢者医療保険特別会計	歳入	5349万円	5万円	△0.1 %
	歳出	5344万円		0.4 %
簡易水道特別会計	歳入	1億1430万円	—	1.2 %
	歳出	1億1430万円		1.2 %
公共下水道事業特別会計	歳入	1億2693万円	—	2.2 %
	歳出	1億2693万円		2.2 %
農業集落排水事業特別会計	歳入	6777万円	—	△3.2 %
	歳出	6777万円		△3.2 %

## 引き続き、健全な予算運営を図ります 実質公債費比率は21・1割に

4つの指標で自治体の財政健全化を表す「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、平成24年度の各比率を公表します。

4つの指標のうち、1つでも国が定めた基準を超えた自治体は「財政再生団体」または「健全化団体」となりますが、日野町はすべての指標で、基準を下回っています。しかし、実質公債費比率は近隣町村に比べ、依然高い状態です。今後も健全な予算運営が求められます。

### 【実質赤字比率】

一般会計の赤字の程度を指標化したものです。平成24年度は黒字決算のため、この比率は生じません。

### 【連結実質赤字比率】

一般会計、特別会計すべての会計の赤字や黒字を合算し、町全体としての赤字の程度を指標化したものです。平成24年度は黒字決算のため、この比率は生じません。

### 【実質公債費比率】

借金の返済額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すもの

です。前年の22・6割から21・1割と、1・5ポイント改善されました。

### 【将来負担比率】

町の借入金や将来払っていく可能性のある負担の現在残高を指標化したものです。年々、基金への積立額が増えていることで、前年の81・0割から50・7割と30・3ポイント改善されました。

## 日野町の財政4指標の数値 (平成24年度決算)

	財政再生基準	早期健全化基準	日野町数値
実質赤字比率	20%以上	15%以上	— %
連結実質赤字比率	40%以上	20%以上	— %
実質公債費比率	35%以上	25%以上	21.1 %
将来負担比率		350%以上	50.7 %

# 事業に取り組んでみて

《放課後子ども教室》

子どもたちを見守る安全管理員の人員確保が課題です



教育委員会事務局  
主幹 矢田貝慎一

6時まで開設しています。

利用状況は、平成22年度開設時は24人でしたが、現在は31人が利用しています。利用はおおむね1年生から4年生です。

活動内容は、挨拶・靴揃えの励行から始まり、読書、宿題、遊びのほか、随時、自然観察や地域の方との交流など、さまざまな体験活動を企画しています。

町では、児童の放課後に安全で安心できる居場所の提供と、年齢の異なる児童と地域の方がさまざまな活動・交流を通して児童の健全育成を図ることを目的に、平成22年度から『放課後子ども教室』を開設しています。

各小学校の放課後に、安全管理員を配置した安全な居場所を作るもので、主に児童の帰宅時間に保護者が不在となる家庭が利用されています。

各小学校の多目的教室を使い、学校がある日の午後3時から午後



▶ がんけん



▶ ツージーちゃん

## 平成24年度に行った事業のうち、放課後子ども教室とがん検診率向上キャンペーンについて担当者が効果を検証しました。

《がん検診受診率向上キャンペーン》  
毎年がん検診の受診を!



町健康福祉センター  
保健師 渡邊江理  
管理栄養士 長谷川 遥

町では、平成24年度から5年計画で『がん検診率向上キャンペーン』に取り組んでいます。きっかけは、町の死因第1位ががんであることと、がん検診の受診率が低かったことなどです。

まず、住民の皆さんに親しんでいただけるよう健康づくりのキャラクターを作成しました。町の花である「ツツジ」をイメージした「ツージーちゃん」と、柴犬をイメージした「がんけん」(犬のケンと検診のケンをかけています)です。広報や封筒などで目にしてもらっているでしょうか。キャラクター入りの啓発グッズとして、まずポケットティッシュ

を作成。ぽかぽか教室やスーパーマーケットなどで配り、がん検診の案内にも同封しました。またポスターを掲示したり、「がん検診を受けよう」と書いたマグネット看板を作成し、町営バスに貼って運行してもらっています。

さらに、休日にごがん検診を行ったり、子宮頸がん検診を医療機関で受診できるよう体制を整えたほか、平成24年度から人間ドックを再開しています。

成果として、平成23年度と比べ、大腸がん、乳がんとも受診率の向上が見られましたが、各がんともまだまだ受診率が高いとはいえない現状です。それでも受診された住民の方からは「早くがんが見つかり治療ができて良かった」など、喜びの声を聞いています。

皆さんにお願いですが、今年医療機関や職場などでがん検診を受けられた方は、健康福祉センター(電話72・1852)までご連絡ください。がんは早期発見早期治療が肝心です。がんで泣くより、笑って予防!受けて安心明るい明日、毎年がん検診を受けましょう。